

子 供 と 遊 び

曾 和 光 代

はじめに

子供の遊びは、その時代を反映しているといわれているが、たしかにその通りである。マスコミは今日の子供達の生活環境に大きな変化を与えている。特にテレビの影響は大したものである。テレビからの情報は子どものあらゆる感覚器を通じて、全身で世界を体験していく。良きにつけ、悪きにつけ、子供達の生活を大きく変えてしまっている。「直接体験」をしなくても、幼少期から「間接体験」で色々な事を知識としてもっている。これらの事が今日の子供達の遊びの中にどのように変化し表われて来ているか少し調べてみたい。

I 遊び体験の少ない今日の子供達

小学校六年生のキャンプの説明会での話し合いの場であったが、先生が説明しおえ、「何か質問は……」という時であった。ある母親が「ラジカセ持たせてよろしいか。」ラジオとカセットデッキ一緒になったものの事である。息子が持っていきたいのだそうである。ポケット盤のゲームウォッチ等持たせてやりたいと親も願う。学校教育の中で自然体験の少ない今日の子供達に自然体験の場を設けてもらっている。又みんなと一緒に遊べる場でもある。こんな機会になぜ、既製の遊び道具をもっていかねばならないか。山や川へいったい何をしに行くのか親もわかっていないのではないか。ラジオやゲームは家でも聞けるし、やれるではないか。冷たい水、皆んなと、手づかみでとる魚、ごつごつした岩場を素足、素手で体験してほしいものだ。

昭和30年位までは日本も貧しい時代であったので子供なりに手伝い働くことを余儀なくされていたため、親や大人の目のかすめて暇さえあれば遊ぼうと考えたものだ。友がよれば遊びが自分達で工夫された。今日は電気機器に埋もれスイッチ一つで、何もかもオーケー子供達に家事労働をかすどころか、母親の方も時間にゆとりができてしまった。家事労働から解放されている現代の子ども達は、これぞとばかり喜々として遊びに酔いしれているかと思うと、意外に子ども達は遊んでいないのである。何かのつなぎに、ラジオを聞いたり、ゲームウォッチをするというのが今日の子ども達らしい。例えば、塾のはじまる時間まで、ピアノのおけいこまで、夕食がはじまるまでなど過密スケジュールの合間に、つまり暇つぶしになんとか遊びをつなげるというのである。かつては何はなくとも、しなくとも遊びにだけは熱中していたのに、その遊びにも子供達は情熱を注げなくなって来ている。

理由としては

1. **遊び場がない** 今は少しの空地も、駐車場になったり住宅が建ってしまった。道路は交通が激しく草も石ころもない。
2. **過密スケジュール** 学歴社会の煽りを受けて、学習塾、英語塾、音楽、スポーツ等を学校教育以外に習得しなくてはならない。
3. **そのために遊び方を知らない** これについては、私も子供達を40人ほどつれてハイキングに行った時である。昼食後自由時間を与えると、それぞれ大喜びで、リュックサックより、ポケット盤のゲームをだしてきて、やりはじめた。これだけの人数が集ってもやる遊びは一人遊びである。そこで、「罐けり、かくれんぼ」を私が数人の子ども達と始めると皆んなよって来てやっと遊びらしくなる。低学年も高学年も一緒になって遊べたしだいである。この子供達に「このごろ何をして遊んでいる。」と質問すると、「何もしてない。」「テレビ見てる。」と返事がかえってくる。親にすれば、「勉強しないでテレビばかり見て。」と、いい、子供にすればおもいきり遊んでいないのでなんとなく遊んだ気分がしない。さらに「でも何かしてるでしょう。学校から帰ったら。」

表 I 学校より帰宅後の遊び

性別 内外 年		男 子		女 子	
屋 外	幼 児	・ボール遊び・自転車乗り		・鬼遊び・ボール遊び	
	低学年	・ボール遊び・鬼遊び・自転車乗り		・ボール遊び・鬼遊び・自転車乗り	
	高学年	・自転車・ボール遊び・鬼遊び		・ボール遊び・自転車乗り	
屋 内	幼 児	・ごっこ遊び・ブロック積み		・ごっこ遊び・本読み（絵本）	
	低学年	・ゲーム・ブロック・メンコ・マンガ		・ごっこ遊び・ゲーム・マンガ	
	高学年	・ゲーム・マンガ		・ゲーム・マンガ	
好きな 遊 び	幼 児	・自転車乗り・ブロック積み		・ままごと・本読み	
	低学年	・ボール遊び・鬼遊び		・ボール遊び・鬼遊び	
	高学年	・ボール遊び・鬼遊び・自転車		・ボール遊び・鬼遊び	

(須磨区高倉台もみの木子供会)

と質問すると、「サッカー」、「バレーボール」、「ドッジボール」「野球」等の球技の名称がでてくる。その他の遊びとしては、「鬼ごっこ。」「自転車のり」等の返事がかえって来た。これを簡単な表にまとめてみると、表 I のようになる。屋内ではテレビを見る以外にお家の中で何をしているのかを聞いたので年齢の低い子供ほど「ごっこ遊び」が多く。内容的にはテレビ番組の中の主人公を模倣した遊びが多い。男子では「キン肉マン」ごっこ。「キャプテンつばさ」ごっこ等女子では人形ごっこが多いのだがこれらもテレビの宣伝よろしく、既製の人形セットで、人形に名前までちゃんといっている。「リカちゃん」「バービーちゃん」、「こえだちゃん」等、服や家、家具等がセットで売られている人形に名前をつけてやる楽しみもうばわれているしだいである。高学年ではゲームが多かったがこれも既製の何十万もする高価なコンピューターゲームを持っている子供は数としては少ないが、やはりテレビ以外に既製ゲームを数種類こなすのが楽しみなそうである。しかし、好きな遊びを聞いてみるとゲームではなく戸外へでてボール遊びや、鬼遊びが好きであると答えてくれている。ポ

ール遊びではそれぞれの種目に合ったボールを子供達は持っている。サッカーであればサッカーボールを野球であればグローブ、ボールを各自持っており、スポーツサークルに入り練習をする本格的な球技である。代用ボールで草野球、ボールをつかった鬼遊び、てまり歌にあわせてのまりつき等といったボール遊びとはちがってくる。

あまりみんなとあそぶ遊びをやらないので、鬼遊びの種類や、石ころ遊びの種類をそれぞれ聞いてみると、みんな知っている、やった事もある、と言う。しかし、それは子供達同志ではあまりやらないで、何かのサークル活動の中でボランティア活動をしている大人に教えてもらい、リードしてもらって遊んだらしい。それをもちかえり近所の子供達とはあまり遊ばないのである。但し、同年齢の子供同志では遊ぶらしい。世話をやき、保護育成しなければ遊べなくなってしまったのだろうか。遊びに対するあのエネルギーは、みんな学習の方へ注がれてしまっているのだろうか。進学塾が花ざかり、受験のためのスリヌケ術は盛んであるが、それが真の学習にほど遠いものである。

たしかに今日の子供達は、鼻をかむのを忘れるくらい遊びに熱中する姿をみかけなくなった。子供の遊びに時代の流れを感じる。

Ⅱ 遊び三世代の流れ

日本経済が高度成長しはじめる以前に 幼少年期を迎えた本学学生の親。戦中、戦後。(昭和10年代～20年代生)をAとし。

高度成長しはじめた頃に生れ育った本学学生(昭和30年代後半～昭和40年生)をBとし。高度成長最盛期に生れ育った今日の子供達(昭和40年代後半～50年代生)をCとして表Ⅱ表Ⅲにまとめてみた。

これは昭和56年度～59年度保育内容(健康)の受講生。「子供の頃の遊び」のレポートをもとに整理。

A 高度成長期以前の子供の遊び

年代順に見てゆくと、高度成長期以前幼少期を過ごしている本学学生の親、

私も含めての遊びはどんなものだったか、表ⅡのA欄よりみると、屋外では第

表Ⅱ 屋外及び体育的効果の高い遊び

年代 順位	A	B	C
1	<p>★鬼遊び 33%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦かくれんぼ形式 ◦陣とり形式 ◦おいかけっこ形式 ◦わらべ歌にあわせて ◦その他(ゲタかくし, ハンカチ落とし。) 	<p>★鬼遊び 46%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦かくれんぼ形式 ◦おいかけっこ形式 ◦陣との形式 ◦安全地帯をもうけてのゲーム形式 ◦ボールをつかって ◦その他(クツかくし, ハンカチ落とし。) 	<p>★ボール遊び 34%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦野球 ◦サッカー ◦ドッジボール ◦キャッチボール ◦バドミントン ◦バレーボール ◦ソフトボール ◦キックベースボール ◦その他 (中あて, 手打ち野球, リーチ田, 天下, インサボールまりつき。)
2	<p>★飛んだり跳ねたり足のバネをつかう遊び 29%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦石けり(ケンパー) ◦なわとび ◦ゴムとび ◦馬とび(ドンマ, ドウマ) 	<p>★飛んだり跳ねたり足のバネをつかう遊び 25%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ゴムとび ◦石けり(ケンパー) ◦なわとび ◦馬とび 	<p>★鬼遊び 27%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦かくれんぼ形式 ◦おいかけっこ形式 ◦安全地帯をもうけてのゲーム形式 ◦陣とり形式 ◦わらべ歌にあわせて ◦その他(クツかくし, ハンカチ落とし)
3	<p>★自然の中で遊ぶ 19%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦とりもの 魚(ジャコ, 貝, フナ, 等)鳥(メジロ, スズメ等)カエルうち, 虫(トンボ, セミ, ホタル, チョウチョウ, イナゴ。)花摘み, 柿, ドングリとり, 等 ◦川, 海 水てっぽう, 水中もぐり 水泳, どろんこ水遊び ◦野山 砂くずし, 野山探険, ハイキング, スキー 	<p>★ボール遊び 17%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ドッジボール ◦その他(中あて, よねこ, 町人, 天下町人, 天だい, インサボール, 天下, 四角ちゅうどん, まりつき) ◦野球 ◦バレーボール ◦バドミントン ◦ハンドベースボール ◦フットボール ◦サッカー ◦卓球 ◦テニス ◦ポートボール 	<p>★飛んだり跳ねたり足のバネをつかう遊び 17%</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ゴムとび ◦なわとび ◦石けり(ケンパー)

4	★ボール遊び ○まりつき ○ドッジボール ○草野球 ○テニス ○バスケットボール ○その他(こんにゃくボール, いんさい, 天丁)	10%	★自然の中で遊ぶ ○とりもの 魚(メダカ, 貝, 等)カ エル, ザリガニ, 虫(セ ミ, トンボ, 等)シイの 実, ジュズ玉 ○木の実鉄砲, ササ舟流し, 草笛 ○石, 砂, 貝等で遊ぶ。	7%	★既製及び備え付 け遊具 ○乗り物 自転車, ローラースケー ト, スケートボード, 一 輪車 ○固定遊具 ブランコ, スベリ台, 鉄 棒, シーソー, タイヤ, ツリ輪, アスレチック等	16%
	★その他 ○竹馬 ○たこあげ ○相撲 ○罐げた ○はねつき ○リングまわし ○棒たおし ○かけっこ ○自転車 ○ローラースケ ート	9%	★その他 ○竹馬 ○罐げた ○フラフープ ○ジャンケ ン遊び ○たこあげ ○はねつき ○スベリ台 ○鉄棒 ○ブランコ ○タイヤ ○自転車	5%	★その他 ○竹馬 ○たこあげ ○かけっこ ○水泳(プール) ○虫とり ○魚とり ○砂遊び ○山登り ○魚, 鳥, その他動物の飼 育等。	6%

1位は鬼遊び, これも, かくれんぼ形式のものが多かった。次においかけ鬼, 陣とり形式のものと続くが, 家の手伝いの合間をぬって子供同志夕方遅くまで遊んだ記憶がある。場所は裏山や神社, 寺, 路地等である。鬼遊びは誰れでもが楽しめる素朴で経済的な遊びであった。

2位は運動量の多い, 石けりや, ゴムとび, なわとび等で, これらも手伝いの合間をぬって, 家の近くの路地裏や学校の校庭でやった。石けりの石はどこにでも落ちていた。ゴムとびのゴムやなわとびの縄も身近な物を使った。例えば縄等は炭俵等を括ってある縄を解いて使った。これらの遊びも親に経済的負担をかけた記憶もない。

3位は自然の中で遊ぶ。川も海も泳げる所が多かった。鮒, どじょう, めだか, たにし, しじみ, からす貝等川でとって来た獲得物をバケツや, タライ等に入れてながめ満足感に浸り, 友達同志で自慢し合う。野原や, 堤に行けば草原で歩けば, バッタがとんで出てくる。これも魚とりと同じく, 誰が一番大きなバッタをとったかで自慢し合う。山に行けば探険をする。時には, 玉虫のきれいなものを見つけては, スバラシイ宝でも手に入ったかのように皆んなでよ

表Ⅲ 屋内及び運動量少の遊び

年 順 代 位	A	B	C
1	<p>★手さきをつかう 78%</p> <p>遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お手玉 ○おはじき ○メンコ ○竹トンボ ○ビー玉 ○あやとり ○竹がえし ○こままわし ○くぎさし ○ケン玉 ○リリアン編み ○ビーズ作り ○折り紙 ○紙ふうせんつき ○手打ち (せっせっせ) ○ぬり絵 ○絵書き 	<p>★手さきをつかう 50%</p> <p>遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あやとり ○ビー玉 ○お手玉 ○メンコ ○指陣とり ○おはじき ○折り紙 ○こままわし ○手折ち (せっせっせ) ○ねんど ○手のせ ○ケン玉 ○竹トンボ ○リリアン編み ○ヨーヨー ○工作 (ペーパークラフト等) ○ブロック組み ○ぬり絵 ○絵書き ○プラモデル 	<p>★ゲーム形式の遊 5%</p> <p>び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テレビゲーム ○ゲーラウオッチ ○パソコン ○マイコン ○ゲームセンター ○ゲーム盤 (オセロ, チェス, ドンジャラ, サッカー野球等) ○クイズ ○パズル ○トランプ ○かるた
2	<p>★模倣遊び 16%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ままごと ○人形ごっこ ○お医者さんごっこ ○看護婦さんごっこ ○学校ごっこ ○電車ごっこ ○兵隊さんごっこ ○チャンバラごっこ ○ターザンごっこ ○探偵ごっこ等 	<p>★模倣遊び 35%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人形ごっこ ○ままごと ○探偵ごっこ ○警察ごっこ ○学校ごっこ ○仮面ライダーごっこ ○アタック№1ごっこ ○サリーちゃんごっこ等 	<p>★模倣遊び 19%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ままごと ○お店屋さんごっこ ○超人ごっこ ○快獣ごっこ ○きん肉マンごっこ ○人形ごっこ (バビーちゃん リカちゃん)
3	<p>★ゲーム形式の遊 4%</p> <p>び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かるた ○トランプ ○福笑い ○スゴロク ○将棋 ○碁 	<p>★ゲーム形式の遊 9%</p> <p>び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種ゲーム盤 (既製) ○トランプ ○かるた ○将棋 	<p>★手さきをつかう 13%</p> <p>遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プラモデル作り ○ (ライダー, モデルガン, 鉄道ロボット等) ○お手玉 ○おはじき ○あやとり ○ビー玉 ○メンコ ○ねんど ○折紙 ○絵書き ○ぬり絵 ○ブロック組み
4	<p>★その他 2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シャボン玉 ○にらめっこ ○字あて ○腕相撲 ○紙しばい 	<p>★その他 6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本読み ○テレビを見る ○コレクション (布, プロマイド, シール, 切手等) ○シャボン玉 ○字かくし 	<p>★その他 17%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テレビを見る※ ○本読み (マンガ) ○コレクション ○ラジカセ ○トランシーバー ○コンサート ○映画

※その他のテレビを見るは、その他の内の45%をしめる。

ろこんだ。草花も、レンゲ、タンポポ、クロバー、つくし、ひがん花、等季節の草花が野に咲きみだれた。私もつくしや、よもぎをが淀川の堤にとりにゆき籠に一ぱい摘んでくれば母親が料理してたのを思いだす。物資は少なかったが、自然にめぐまれていたので歩けば遊びになったのかもしれない。今はその堤も、コンクリートで固められてしまっている。川岸は公園として、人の手がはいり芝生が植えられ、テニスコートがあり、コンクリートで出きたスベリ台やアスレチックがある。見事に整備されているのである。その上、川は立ち入り禁止である。

4位はボール遊びが入って来る。本格的な球技としてではなく、わらべ歌に合わせての、まりつきや、ドッジボール、草野球等、子供達同志で楽しむといったボール遊びである。野球をするにしても皮製の良いグローブを持っている子供はほとんどいなく布製又は母親の手作りのグローブ等で男の子達はキャッチボールをしていた。バットも木ぎれの適当なものを見つけて使っていた。まりつきの球もゴム製で、釘に当たれば、すぐに穴があいてしまう。自転車屋にもってゆけばチューブの古いものを利用して修理してくれる。弾み方が変わるが、又それがおもしろかった。ドッジボールもよく空気がぬけた。今ほど、カラフルで丈夫なものではないが修理がきかなくなるまで使って遊んだ時代であった。

その他、手作りの竹馬、罐げた、自転車のリングの古いのをもらって来て、リングを棒ぎれで廻しながら競争をした。冬になれば、はねつき、たこ上げ等をした。自転車や、ローラースケートを持っている子もいたが、自転車等は今ほど色々な種類がなく、大人用の自転車を横のりして練習したものだ。私も自転車を持っている友達の家へ行き練習させてもらうのが楽しみであった。我家に自転車が購入されたのはそれから5～6年後の事である。昭和32年頃だったように思う。

屋内(表ⅢA)では、手さきを使って遊ぶ事がおおく玩具も手作りか、そう高価でない物をつかて遊んだ。男の子だったら、メンコ、ビー玉、竹トンボ、釘

さし、こままわし、女の子ならお手玉、おはじき、あやとり、竹がえし等をして遊んだが、おはじきや、ビー玉はカラフルなものは少なく、ソーダーガラスで吹き上った安価なものが多かった。お手玉等は母親に端切れで作ってもらい、自分で針が持てると自分で作ったものだった。竹トンボ等も男の子は自分で作っていた。その他、男の子はよく釘で遊んでいたのを思い出す。鉄道の線路の上に五寸釘を並べて列車が通り去ったあとペッシャンコになった釘を取りに行く。学校からも注意があったが、考てみれば危い遊びである。

2位はごっこ遊びである。いつの時代もこの模倣遊びが上ってくるのはおもしろい。時代の流れで名称は変っているが、お医者さん、学校、電車、ままごと等のごっこ遊びはそう変らない。この時代は、兵隊さんごっこ、チャンバラ、ターザンごっこ等のごっこ遊びを男の子がやっていた。女の子も、ままごとの中で継母なる者がおり子供達が働かされる。という内容等があり、戦災孤児を主人公にした少女雑誌の小説をまねて遊んだ。シンデレラや小公女のようなものである。

これらもその時代の反映である。ごっこ遊びはその時代を一番表わしている大人の姿かもしれない。ごっこ遊びの中で子供がどの様に社会、家庭環境を受けとめているかがよくわかるのではないか。子供がその時代に適応しようとする表われの一つかもしれない。

B 高度成長期前半の子供の遊び

高度成長期前半に幼少期を迎えた本学学生の子供の頃の遊びでは、屋外（表Ⅱ B欄）より見てゆくと、1位はAと同じく、鬼遊びである。鬼遊もただかくれたり追いかけたりするのではなく少しゲーム形式になったものが入ってくる。名称も「目玉やき」「フライパン」「たんぼ」「十字架」「ひまわり」等があり、それぞれの名称の図形を地面にえがき安全地帯や陣を築いて遊ぶ。2位は飛んだり跳ねたりする運動量の多いゴムとび、なわとび、馬とび、石けり等がAと同様に入ってくる。子供達の決めたルールで色々なコースを競い合う。場所もそう広い所でなくとも良く、手近かな遊びである。石けり等はAと

同様ルールはそうも変っていない。3位にボール遊びが入ってくるが、これも今日の子供達のようにスポーツ種目としてのボール遊びだけでなく、まりつきや、テニス、野球、卓球もどきの様なもので、ルールは子供達によってつくられ、コートも縮小されたボール遊びである。名称も「中あて」「天下町人」等、地方によってよび名が変わってくる。ドッジボールもよくしていたようだ。まだ大人の介入は少ないようである。4位に自然の中で遊ぶ、が入ってくるが、魚やカエル、ザリガニを取りに行ったり、しいの実やじゅず玉等の実も遊びの中でつかわれている。また野山や川で遊んでいる。その他に、竹馬や罐げたで遊んでいたらしいが、学校や公園の固定遊具が上ってきている。

Aとのちがいはボール遊びと自然の中での遊びと順位が入れ変って来ている。自然が少なくなってきた現れだろうか。

屋内の遊び（表Ⅲ B欄）では、1位に昔ながらに遊ばれていた、お手玉、あやとり、おはじきメンコ、ビー玉等が上げられているが、これらの遊びは、父母に教えてもらったそうである。しかし、徐々に現代文化が入り、プラモデル、各種ゲーム（既製品）、テレビ等が子供の遊びの中に入り込みだしている。2位は昔と同様ごっこ遊びである。少しちがって来ているのはテレビ番組の主人公をまねた遊びがはやったらしい。例えば、「サリーちゃん」「アタックNo.1」「仮面ライダー」ごっこなる遊びをよくしたらしい。やはりテレビは子供達の中に間違いなく入り込んで来ている。その他に、本読み、テレビを見る、色々な物を集める等が楽しかったらしい。

Aとの違いは、大きく現われていない。まだ昔ながらの伝承遊びが子供達の遊びの中に残っている。

C 今日の子供達の遊び

今日の子供達の遊びを見てゆくと、屋外（表ⅡのC欄）ではボール遊びが1位である。これについては、前記のように代用ボールではなく、そのスポーツに適したボールを子供達が持っており、何らかのサークルに入り、コーチ、又は指導者をえて本格的な球技としての知識をもっている子供が多い。子供同志

遊んでいる内に工夫され、ルールが生まれたボール遊びではない。これは表Ⅰに示された結果と同じである。2位は鬼遊びである。これは今も昔も変わらないルールで受けつがれている。かくれんぼ形式、安全地帯のあるもの、陣地とり、わらべ歌にあわせて遊ぶ。3位に飛んだり、跳ねたり、蹴ったり等運動量の多いゴムとび、なわとび、石けり等があげられている。ゴムとび等もやはり昔と変わらず歌をうたいながらゴムを足に絡めては外し、絡めては外す。又、段を徐々に高くしてゆき、より高いところがとべるように挑戦してゆく。ゴムの質が良くなっており少々の絡めでも切れる事がない。これが昔とのちがいであろうか。石けりも、そう変らない図形で遊んでいる。なわとびは学校の教材に入るのか、色々なとび方を練習しているのを見かける。しかし、皆んなと歌に合わせてとんでゆく遊び方もやっている様だ。4位は既製玩具である。これは、学校、公園等に固定してある遊具も含める。スベリ台、ブランコ等、遊具そのものに挑戦もするが、遊んでいる内に遊具を利用したの鬼遊びや、ごっこ遊びに変わってゆく場合もある。あとは自転車、ローラースケート、スケートボード、一輪車等であった。自転車等は大半の子供が自分のものを持っている。その他に、自然の中で遊ぶ、虫とり、魚釣り、山登り等であるが、近くの山は切り開かれて住宅や道路ができ、原っぱや、ちょっとした空地もモータープールになってしまっている。川や海は工場の汚水や家庭排水からの汚れ等で遊べず、川岸等はコンクリートで固められてしまっている。自然にふれるためには、遠くまで出かけなくてはならず、大人に連れていってもらわなくては行けない事も順位がもう一つ上位ではない理由であろう。しかし子供の遊び心はこの自然の中から生れるものであって、決して行届いた遊園地や、公園にあるのではないと考える。今日の子供達はその点では大へん不利である。子供同志で行ける身近な自然がほしいものである。

私自身も子供と一緒にざりがに取りについていった事があるが、バケツを持って子供達と歩いていて、「虫とりや、ざりがにとりに親と一緒にいってもらったことがあったらどうか。」等考えさせられる。私の幼い頃も同じように危

険な場所も結構あったが、年上の子供が数人引き連れて遊びにつれて行ってくれたものだ。親も別について行くほど暇はなしと、いったところだったのかもしれない。自分が年長になれば、年下の子供を引き連れ、山や川へとつれだして、一日中泥だらけになって遊んだ。親にはいつも、「また子供同志で川へ行ったのか…！」と注意されても、又、川の魅力につられて行くのである。そんな場所がなければ行きたくても今日の子供達は無理なのかもしれない。

他には、冬のたこあげ、竹馬、メンコ等で遊ぶそうである。たこ作りや竹馬作りは学校や幼稚園でも習ったそうである。材料は和紙や竹ではなく、ビニールやポリエチレン等、化学製品より出来上ったものが使用されている。

今日の子供達の屋外での遊びより感じることは、自然の中で、大人の目のとどかない所で、ゆきあたりばったりの世界を偶然にみつけ、積極的、創造的に遊ぶことをしないで、つくられた各種スポーツでの遊びの方をよくしている。これはより高度で安全な遊びと願う大人の心が大いに入っているのではないかと思われる。

屋内では（表Ⅲ C欄）1位は既製のゲーム盤をつかって時を過ごす事が多いようである。子供の小遣いで到底買えそうもない高級品もあるが、皆んなが皆んなそのようなゲーム盤を持っているわけではない。ごくわずかな子供達である。しかし、小さなゲームウォッチ（5,000円程度）は多かれ、少なかれ子供達は持っている。次から次へと、ゲームの難度に挑戦してゆく姿は、遊び道具は変れど、かつて我々が、石あてや、お手玉、メンコに挑戦した、あの姿なのかもしれない。

2位にずっと遊びができていたがこれはいつの時代も楽しいものであり、子供が必ず経てこなくてはならない遊びの一つであろう。ままごと、お医者さん、学校、おまわりさん等あげればきりが無いが、大人達を見ての模倣遊びである。他にテレビ番組の主人公等が出てくる。今日は「きん肉まん」なるマンガの主人公が人気を集めている。

3位は手さきをつかう遊びであるが、Aとはちがった内容で、手近な材料を

利用して、作りだし、遊ぶのではなくプラスチック製の組み立て式のもので、

- ① 身体や運動能力を発達させる
- ② 心身の健康を保つ
- ③ 社会性を発達させる
- ④ 自発性や積極性を身につける
- ⑤ 創造性を高める
- ⑥ 知的能力を育てる

など種々の側面から成長をとげることができる。

今日の子供達の遊びは1～5の条件を満たしきれず、社会性、積極性、創造性に欠ける子供がふえつつある。

日本も高度経済成長発展のため色々と生活面が豊になったのはたしかだがそのため、より一層、経済的に、物質的に、知的に、高度で豊かな生活をする大人が次代の子供へと伝わってゆく。幼い頃より、野山より安全な公園で、水遊びより水泳教室へ、ボール遊びより野球やサッカー教室へ、公園やグラウンドは、遊びの域を脱した選手養成所である。このため、子供同志で遊ぶことを知らないのが現代子。何か大人にプログラムを組んでもらった中では器用にプレーをマスターしてくれる。

子供達にとって必ずしも公園やグラウンド等、特別につくられた大規模な施設は遊び場として必要なく、むしろ子供に望ましい遊びを保障してやるためには、子供の生活に「地域社会」とのつながりを復活させることがぜひとも必要である。情報がマスコミによって流れその上、核家族性になった現代社会では地域の交流が失なわれている。すべて家庭内で情報が賄いきれるからだろう。最少限の付き合いでなんら日常生活は不自由しないのである。しかし幼い子供の場合、地域社会の喪失は、大人の場合の何倍も重要な意味をもっている。子供にとって地域は、子供が十分な成長発達をとげるための遊び場であり、庭であるはずである。すなわち子供にとっての「地域」とは整備されたスポーツセンターや公園などの文化的設備を多く備えた生活空間ではなく、子供同志で安全に

移動ができ、人の集まれるスペースを意味する。しかもそこには、子供同志はもちろん、大人や老人との家族の延長のような接触の機会のあることが望ましい。昔は神社仏閣の境内は大人にとっても夕涼み寄り合いの場、子供にとっては遊び場であった。今日は、文化センターや、スポーツセンターで、水泳教室、卓球教室、絵画教室、習字教室、その他集会等、利用者はかなり多いようである。しかし、これは大人達で組まれた、プログラムであり、子供達だけで遊びに利用する事はない。子供達はそこへ習いにゆくのである。

おわりに

休みの日はのんびりと歩きまわるのが好きである。時間がゆるせば子供達と一緒に遊び仲間に入れてもらう。子供達がどんな遊びをしているか見るのは楽しい。

土曜日の放課後小学校の門のそばの階段で5～6人の男の子がメンコ（ベッタ）を階段のはしに並べてメンコとばしをしている。懐かしい光景に、しばらく見入ってしまった。小学校2、3年位の男子である。片足は素足で、ぬいだ片方の靴を手に持ち思いきり靴の裏でメンコをはたきとばすのである。できるだけ遠くへとばせた者が皆んなのメンコをもらえる。菓子箱には、ぎっしりとメンコが整理されて入っている。私の子供の頃でも男の子は、メンコに熱中していた。いかに相手のメンコをやっつけるか、投げ方、とばし方、メンコの弾力性等に苦心していたようであった。この子供達も同じ事を考えているのではないか。手も足もコンクリートの汚れでまっ白けになってやっている。ルールは子供同志で考えだされたものだが、少々の小競合も入りなかなか勝気がある。何もなかった時代の遊びの名残りなのか、昔から伝えられた男の子の素朴な遊びとして伝承されてゆく遊びの一つなのか、あまり今日の子供達がやっているのを見かけなくなってしまった。

遊び道具は変れど高価なコンピューターゲームに熱中し次々と高度なプログラムに挑戦してゆく今日の子供達の姿、メンコやビー玉等に熱中した時代の子

供達の姿、どちらも子供が持っている遊びにかけるエネルギーはいつの時代もモデルガン、グライダー、鉄道模型、ロボット等がある。作る過程は手先きの仕事であるが、でき上がったもので遊ぶ場合は模倣遊びに入る。大人でも結構楽しめる高級品が多くある。昔ながらのお手玉や、メンコ等も全くなくなって、しまってはいないようだが、あまりやらない様だ。それよりおもしろいものが沢山あると、子供達はいう。既製玩具におされて子供独特の遊びの乏しさに少し考えさせられてしまう。

その他には、テレビを見るというのが上ってくるが、これは遊びかなあ、と考えるが、何もする事がない時はテレビを見ているようだ。次に本読みがある。本読みとなっているが、ほとんどが「マンガ本」である。これも時代の流れか、マンガブーム、読んで理解するのではなく、見て理解をする。スピード時代である。読者の持つ想像性は必要なし、すべて絵が説明してくれる。近頃は少年少女向けに、文学小説、伝記、歴史、等もマンガ式になっており、なかなか内容的に豊富なものにはおどろいてしまう。あとは、コレクション（切手、コイン、シール）である。昔と同じようなものを集めているが、ラジカセ（ラジオとカセットデッキが一緒になったもの）やトランシーバー等は子供の遊び道具にはなかった物である。

テレビの宣伝よろしく、今日の子供達は次から次へと新しい玩具が発売され、企業戦争の渦の中へどっぴりと漬ってしまいそうである。

三世代の流れをまとめると、Aは物質がなく手作り玩具が多い。友が寄れば遊び、歩けば遊び、いきあたりばったりの行動も遊びになった時代、各家庭では子供の役割りがあった。子供達は手伝いながら、弟や妹の面倒を見ながら、お互いに遊んだ。家事労働があって遊びがある。故に遊べる時の楽しさは倍になって返ってきたように思われた。

Bについては、Aと遊びの内容はそう変らない。既製玩具もでまわりだしたが、まだ友達同志寄って遊ぶ事が多い。家事労働については電化が進み各家庭も子供の労力は必要としなくなってきた。

Cについては高級玩具もでまわり贅沢になってきている。屋外での遊びもサークル形式をとり、大人が企画してゆく事が多く。真の子供の遊びからはずれ、子供達は受身の状態である。屋内では、一方通行のテレビ、一人で挑戦するゲームと、友を必要としない。同室に友達がいても、一人一人がちがうゲームを楽しんでいる。社会性や、協調性が養われそうもない遊びである。家事労働については母親も時間のゆとりが出来るぐらい便利になり、そのゆとりは子供への過干渉となる。家事手伝いよりも勉強をと、いうことになるのである。今日の子供達は真から遊べる事が少なくなっている。

Ⅲ 遊びの種類、内容

子供が遊びを通して成長発達して行く事は誰れもが知っているはずである。しかし、この場合の「遊び」とは、どんな種類の遊びでもよいわけではない。遊びにも心身の成長と発達をより促進するタイプのものと、いわば暇つぶし、息ぬきの遊びとがある。もちろん子供達が興味を示し楽しめる遊びであってほしいものだが、子供の生活、発達に寄与する豊かな成長要素をもった遊びである事が望ましい。それは、

1. 屋外での遊び

室内で遊ぶより、自然大気浴をし温室育ちにならないようにする。

2. 全身の大筋肉を動かしてするような活動レベルの高い遊び。手さきの小さい筋肉を使ってする遊びより筋肉、体力の向上になる。

3. 多人数の仲間遊び。

一人遊びより社会性や協調性が養われる。

4. 自分の創意や工夫を働かすことで成り立つような遊び。

市販の既製遊具に依存した遊びではなく、ものを作るよろこびと、根気を養う。

5. 土、砂、水、木、草、虫、動物等の自然とのかかわりをもつ遊び。

自然との親しみから情緒性がでてくる。こうした条件をより多く備えた遊び

をすることで、子供は、

そう変わらないのかもしれない。又、そうあってほしいものである。しかし、一人遊びのゲームに熱中するより、小競合があっても、子供同志の中でもまれて成長してほしいものだ。

参 考 文 献

1. 「世界の幼児教育」2 日本：岡田正章編集（日本らいぶらり）
2. 「世界の幼児教育」1 アジア：阿部洋編集（日本らいぶらり）
3. 「楽しい遊び」4 <室内，園庭編>：日本児童遊戯研究所編 有木昭久，湯浅とんぼ共著（フレーベル新書）
4. 「楽しい遊び」5 <伝承遊戯編>：日本児童遊戯研究所編 有木昭久，湯浅とんぼ共著（フレーベル新書）
5. 小学校「新学習指導要領の解説と展開」<体育編>：前川峯雄ほか（教育出版）
6. 「私の子ども文化論」：かこさとし（あすなろ書房）
7. 遊戯大辞典：中島海（不昧堂）
8. 雑誌「体育の科学」Vol. 35.7.1985. 日本体育学会編集